



Evaluation of DNA Ploidy with Intraoperative Flow Cytometry may Predict Long-term Survival of patients with supratentorial low-grade Gliomas: Analysis of 102 Cases

著者名	鈴木 あかね
発行年	2018-03-26
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032194

主論文の要旨

Evaluation of DNA Ploidy with Intraoperative Flow Cytometry may Predict Long-term Survival of patients with supratentorial low-grade Gliomas: Analysis of 102 Cases

(術中フローサイトメトリを用いた DNA プロイディ解析による低悪性度神経膠腫の長期予後予測：102 症例での検討)

東京女子医科大学大学院
先端生命医科学系専攻先端工外科学分野
(指導：村垣 善浩 教授)
鈴木 あかね

【要 旨】

低悪性度神経膠腫は、一般的に予後が良好な腫瘍である。しかし中には悪性転化する例もあり、早い段階で進行を予測できれば適切な処置が行えるものの実際の予測はしばしば困難である。一方でフローサイトメトリにより得られるヒストグラムは、がんの悪性度を反映することで知られ、多くの研究が報告されている。当院では 2008 年より術中迅速フローサイトメトリを導入し、医師による手術中の判断材料として利用してきた。本研究では、術中フローサイトメトリの、予後予測因子として新たな活用の可能性を検討した。具体的に、得られたヒストグラムを‘Non-aneuploidy’ と ‘Aneuploidy’ の 2 群に分類し、群間で全生存期間 (OS)・無増悪生存期間 (PFS) の比較評価を行った。2008-2013 年に当院で脳腫瘍摘出を受け、初発時に WHO Grade2 と診断され、かつフローサイトメトリ測定を行った 102 症例 (‘Non-aneuploidy’ 68, ‘Aneuploidy’ 34 例) を対象に評価し、OS 及び PFS 共に、‘Aneuploidy’ 群が ‘Non-aneuploidy’ 群より有意に予後不良であった ($p=0.0094$ 及び 0.0184)。よって本手法は、初発時に予後を手術中に予測する有用なツールとなり得ることが示唆された。